

## 第2学年 国語科学習指導案

日時：平成25年8月25日（火）

場所：合同棟

対象：2年2組 35名

指導者：細川 太輔



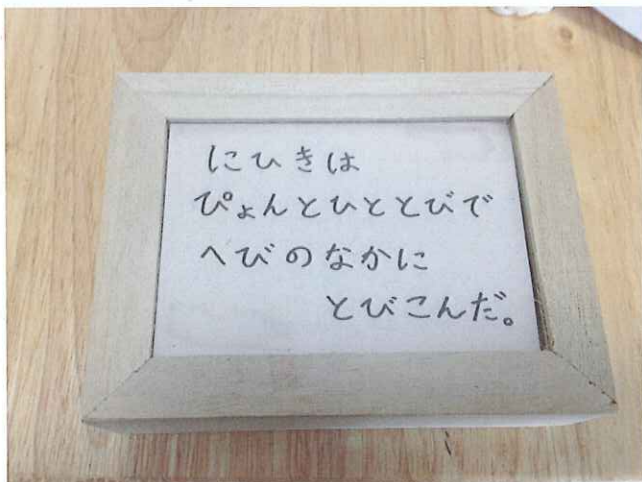
### 1. 単元名 レオ＝レオニびっくりばこを作ろう 共通学習材名 『スイミー』（好学社）

### 2. 単元を貫く言語活動とその特徴

単元を貫く言語活動として、「レオ＝レオニびっくり箱を作ろう」を位置付けた。言語活動例で言えば、読むこと（オ）「読んだ本について、好きなところを紹介すること」にあたる。低学年の児童は、レオ＝レオニの作品を読んで、驚いたり、感動したりするところがあるはずである。それを箱にして、読書紹介につなげることを考えた。まず、箱の表面に、お気に入りの文を書き抜く。そしてその裏に、絵本の書誌情報とお気に入りの理由、自分の名前を書く。箱の中には、そのお気に入りの文章の場面の様子を紙粘土や色画用紙で表現することにした。箱を見た人は、箱の表に書いてある一文に興味をもち、これはどんな文なのだろうと思って、箱を開けると、書誌情報、お気に入りの理由、そして場面の様子がわかるようになっている。そして興味を持てば、その絵本を読むようになるはずである。まるで「びっくり箱みたい」と子どもが言ったので、レオ＝レオニびっくり箱と名付けることにした。



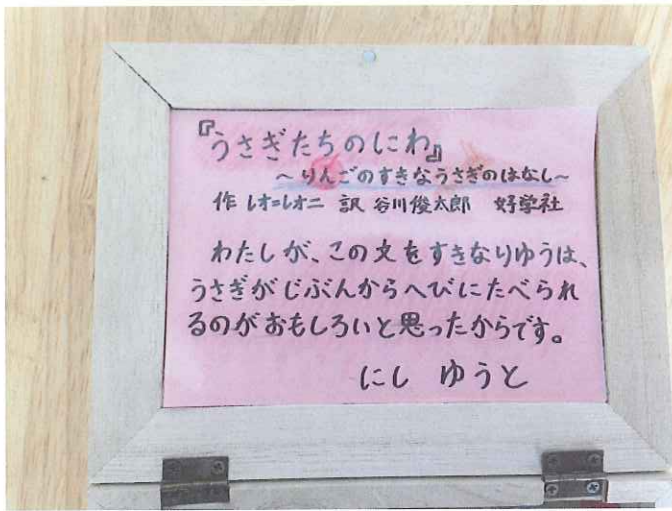
一文が並んでいる箱を空けると、中にはその文がどの本の一文なのか、その文がどうしてお気に入りの理由が書いてある。箱の中にはその一文が書かれている場面の様子が紙粘土で表現されている。この一文に、そんな意味があるのかと、開けた人はびっくりする。まさにびっくり箱。



#### パーツ① ふたの表

びっくり箱のふたにはお気に入りの一文を書く。この時の用紙はコピー用紙で木と同じ色になっている。これだけでは何の文なのか見ている人はわからない。

このパーツは指導事項Cエ「文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと」に対応している。



このパーツも指導事項Cエ「文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと」に対応している。どうして大事な文なのか、自分の考えをもつこともエの指導事項の中に含まれた大切な能力であると考えている。

## パーツ② ふたの歌

箱を開けると、箱のふたの浦が見える。箱のふたの浦にはその一文がどの本なのか、書誌情報（題名、副題、作者、訳者、出版社）を書く。

その後、どうしてその一文がいいと思ったのかを考えて書く。まだ理由をきちんと書けない児童も多いので、理由の書き方もしっかりと指導する必要がある。最後に自分の名前を書いて完成である。

書く用紙は、色上質紙にして、自分が書きたい用紙を選んで書く。箱の外はシンプルに、中身はカラフルに、というコンセプトである。



## パーツ③ 箱の中身

箱の中身はお気に入りの一文が書かれている場面を紙粘土で表現する。まず、紙で背景を書き、紙粘土で登場人物などを作る。乾いたら色を塗り、それも乾いたら粘土用ニスで2度ぬる。

このパーツは指導事項Cウ「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」に対応している。場面の様子を登場人物と一緒に立体に表現することで想像する力を育てられると考えた。

またここで立体にしたのは、レオ二の絵本は平面の作品として完成されたものであり、そこから想像を膨らませるのは困難であると考え

え方からである。立体にすることで、このへびの大きさはどれぐらいなのか、位置関係はどうなのか、などと児童は想像をふくらませることができる。この部分は図工の学習にもなり、図工の時数も取り入れながら作成していく。

## 3. 単元設定の理由

### (1) 児童の実態

毎日日記を書いたり、出席係が毎日お題を出して、出席をとったりするなどして、少しずつ言語活動を習慣化してきている。しかし、まだ友達の話に興味を持てなかったり、集中力を保てなかったりする児童もいる。また積極的に挙手をして発言できない児童や、相手に伝わる声の大きさと話せない児童、自分の考えを整理して伝えられない児童もいる。話す力、聞く力、またはグループやクラスでコミュニケーションをとっていいこうという意欲、どれもまだ弱いと考えている。そこで友達の話を聞くことを強制したり、聞く姿勢を外側からしつづけたりする道をとるのではなく、友達の話を聞いて楽しかったという経験を重ね、友達の話を主体的に聞こうとする姿勢、コミュニケーションをとろうとする姿勢を育てているところである。

1学期のはじめは、難しい読む活動はまだ難しいと考え、音読を中心に楽しい学習を組み立てている。最初に詩を工夫して音読する学習を行った後、「ひっこしてきたみさ」では音読発表会を行った。どの学習も、文章中の言葉と、音読の工夫を結びつけ、本文を根拠に音読する学習を積み重ねてきた。また「いなばのしろうさぎ」では登場人物のお面を作り、音読劇を行った。このように1つの作品を

クラスで読み、表現することで、場面の様子や登場人物の行動を中心に想像を広げてきた。

また、説明文の学習で「すみれとあり」で「びっくりの一文」を書き抜く学習を行い、句読点や漢字などに気をつけて正確に書き抜くこと、説明文でびっくりしたことを理由として書くにはどのように書けばよいのかを学習した。その上で、生きものの本を自分で選び、びっくりした一文を書き抜いて、「びっくりカード」を作成した。本とびっくりカードを並べておき、本を紹介する楽しさを実感させた。

しかし、並行読書をもとに、自分のお気に入りの一冊を決めたり、絵本という文学的な文章でお気に入りを探したりするという学習は行っていない。生きものの説明文でびっくりしたことを探すのは比較的容易であるが、絵本でお気に入りの文章を探すというのは困難が伴うと考え、活動を考えることにした。

## (2) 「お気に入りの一文を書き抜くこと」について

本学習ではお気に入りの一文を書き抜くこと、それについて自分なりの理由をもつことを重視している。この指導事項を本単元であつかうことにしたのは3点理由がある。

1つ目は一文を書き抜くということが児童にとって負担が少ないことである。子どもにあらすじを書かせたり、登場人物の人物を読み取らせたりするのは子どもの負担が大きい。お気に入りの一文を選ぶことであるならば、国語の学習をあまり好きでない児童もすんなり取り組むことができるであろう。

2つ目の理由は一見容易なようで、これからいろいろな活動に発展ができるということである。お気に入りの一文を選ぶことは、文章全体を何度も読まなければならない、部分ごとに読みではなく、文章を全体として捉えて読む学習の基礎となる。またお気に入りの一文には、その一文が書かれている場面があり、同然その一文が書かれている作品がある、いきなり、お気に入りの場面はどこですかと場面を尋ねたり、お気に入りの作品の理由を書きましょう、と言ったりしても児童にとって負担の大きい学習になると考えた。まずお気に入りの一文、その後、場面、作品と少しずつ広げていくことが可能になるという面で発展性のある学習であろう。

3つ目の理由は読書紹介や、引用の学習につなげていくことができるということである、この学習は読書紹介の一パーツとして今後使うこともできる。また中学年以降の引用の学習の基礎として位置づけることができる。なかなか正確に引用することが難しい児童が多い中、低学年からこのような学習を重ねて行くことは大切であると考えている、

## (3) 学習材について

レオ＝レオニの作品は教科書にも掲載されているし、(児童のもっている教科書2年上までには掲載されていないが。) 幼稚園で読んでもらったりするなど、なじみの深い作品である。ほとんどの子どもたちも読んだ作品があると答えていた。レオ＝レオニの作品は、子どもなりに感じる深い内容がたくさんちりばめられている。またほとんどの作品が谷川俊太郎の訳なので、日本語の響きとしても楽しむことができる。子どもがそこまで気付くかどうかは分からないが、いろいろな可能性を秘めた作品であると考えられる。

また共通学習材「スイミー」はきれいな場面、どきどきする場面、感動する場面などいろいろな場面があり、好きな理由としていろいろと考えられることから共通学習材として適していると考えた。

## (4) 単元の構想について

この単元では主体的な学習活動になるよう、子どもが作品を読みたい、びっくり箱を作りたい、という思いを引き出すことを考えた。まず0次として、授業者がレオ＝レオニ展の話をしたところから始めた。教室をレオ＝レオニのポスターや絵はがきをはり、フレデリックやぜんまいねずみの人形を置き、教室をレオ＝レオニの世界で一色にした。また教室の後ろにレオ＝レオニの絵本コーナーを作って、自由にレオ＝レオニの作品を読めるようにした。その結果、休み時間に自分からレオ＝レオニの絵本を読む姿が見られるようになった。

そこで子どもにレオ＝レオニの作品を読みたいかどうか尋ねたところ、読みたいと多数の子どもが

答えたので、レオ＝レオニ読書カードをわたし、子どもにレオ＝レオニの作品にひたらせた。その後レオ＝レオニびっくり箱を見せたところ、子どもたちは「作りたい。」と答え、びっくり箱をつくることになった。ただその際、いきなり作るのは難しいので、みんなで共通の作品で練習してから自分の作品を作ろうと話したところ、子どもたちから共通作品は「スイミーがいい」と多数の児童が意見を言ったので、共通学習材としてスイミーを取り上げた。「スイミー」は子どもに広く知られていた作品なのでそうなるであろうことは予想していたが…。）

#### 4. 単元の指導目標・評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
読書や、紹介活動に対して前向きに取り組む。	文章中から自分にとっての大事な一文を選び、書き抜く。 (エ) 場面の様子を登場人物との関わりで想像を広げながら読む。 (ウ)	句読点や、かぎの使い方を理解する。イ(エ)
レオ＝レオニの作品を読みたい、レオ＝レオニびっくり箱を作りたい、と前向きに取り組んでいる。 (並行読書・箱づくり)	作品の中からお気に入りの一文を選び、書き抜いて、びっくり箱の表面に書いている。 場面の様子を登場人物との関わりで想像を広げ、箱の中身を表現している。(箱づくり)	句読点や、かぎの使い方を理解して正確に文章を書き抜いている。(箱づくり)

#### 5. 単元の学習活動(本時2/6 国語6時間+図工)

0次 レオ＝レオニの世界を楽しみ、レオ＝レオニの本を読む。



大熊は一次の前に0次段階を置くことを主張している。

導入の前に、子どもたちに課題意識や興味・関心を十分に醸成する時間を取りたい。さらに言えば、子どもの捉えた課題意識なり興味・関心なりが抽象的なものではなく、子どもを取り巻く現実生活の中からのものであることが望ましい。

大熊が述べているように、いきなり単元を始めるのではなく、単元を始める前に児童が学習したいと思えるような土壌づくりをすると児童が主体的に学習に臨めるようになる。教室にレオ＝レオニ展で購入したレオ＝レオニグッズを並べたり、本を紹介したりした後、教室にレオ＝レ

オニの絵本を置いておいた。すると子どもたちは自然とレオ＝レオニの本の周りに集まって、絵本を読み始めた。左の写真は休み時間の様子である。

その後、授業中もレオ＝レオニを読みたい、という意見が子どもから出たので、「レオ＝レオニどくしょカード」を渡し、たくさん読んでみようとして投げかけた。すると子どもたちは夢中になって読み始めた。

7/10	7/10	7/10	7/10	7/10	7/10	7/9	7/9	7/9	7/9	7/9	7/9	日にち
あいらしい こころに たいさ	マシヤの ゆめ	フリゲ リック	わたしのよき ほくのたる	びっくり たまご	ひとあし ひとあし	スイミー	コーネリ アス	あおくと きいろう	ペッセル ティノ	つくるう つくるう	みどりの しほの ねずみ	お話の名前
😊 😊 😞	😊 😊 😞	😊 😊 😞	😊 😊 😞	😊 😊 😞	😊 😊 😞	😊 😊 😞	😊 😊 😞	😊 😊 😞	😊 😊 😞	😊 😊 😞	😊 😊 😞	たのしかったかな
けのみは けんかをして いるんだ ですのね。	すべし と田んぼ います。	つれづれ とつれづれ なものを あそび ました。	ひまが 入るは やさしい なと思 いました。	コリンが わにの こころを わたり るとい ったの が おもし ろかた です。	はか ていた ので びく りました。	おんが で大き なさが なにな る。 とい つこと をかん がえた スイミ ー。 すい なと思 います。	ワニが 立ちこ 歩いて いたの で びく りました。	お母さん お父さん に じぶん の子だ とわが こもら ずかた と思 います。	じぶん はだれ のふん が さがる ところ か すい なと思 います。	紙と鉛 筆のつ きか 本もの になっ てびく りました。	どつど つによ うに思 われて いた ねずみ はがし いなど 思 いました。	ひと言 かんざ う

レオ=レオニ どくしよカード

名前  
.....

子どもの書いた「レオ=レオニどくしよカード」

1次 自分が選んだレオ=レオニの作品から、お気に入りの一文を選び、箱の表面に書き抜く。箱の裏にお気に入りの一文を選んだ理由と書誌情報を書く。(6時間)

レオ=レオニカードが書けた後で、児童にレオ=レオニびっくり箱を見せる。すると、子どもたちは夢中になって箱の様子をみた。また箱の表面の一文を見て、すぐにどの本かほとんどの児童がわかるようになっていた。そして子どもたちから作ってみたい、という声が上がったので、子どもたちにやってみるかどうか聞いてみたところ、子どもたちは「やったー！」と大喜びであった。このように最初に単元を貫く言語活動の完成イメージをもたせることで、子どもにやってみてみたいという意欲を引き出したり、今後の学習に見通しをもったりすることが可能にある。

ただいきなり取り組むのは難しいので、みんなで共通のもので練習した後、自分のお気に入りの本でびっくり箱を作ろうと言ったところ、スイミーという声が多く聞こえ、多数決をとったところスイミーが共通学習材に選ばれた。(スイミーが選ばれるであろうことは予想がついていたが、共通学習材に選ばれるよう、念のため教室にスイミーグッズをたくさん飾っておいたが…)

第1時は、スイミーを授業者が絵本で読み聞かせをし、その後で自分のお気に入りの一文を選び、その後お気に入りの理由を書いた。一文を選べない児童、理由が書けない児童も多くいて、個別に対応した。ただまだ全体でどのように一文を選ぶのか、どのように理由を書くのかは、まだ指導していない。一文の選び方は第2時(本時)、理由の書き方は第3時に学習する。

22	16	7	4	1	0
「みん なが おん が す い ま い る こ ろ に は じ っ ぽ を あ そ び ま し た 。	か を み る こ ろ に は じ っ ぽ を あ そ び ま し た 。	に い り ろ せ り ー の よ う な く け !	か り や か な た ち を あ そ び ま し た 。	こ ん だ 。	ス イ ミ ー す き な 文 カ ー ド

2次 選んだ場面を紙粘土などで表現する（図工）

3次 2年生の廊下や、図書室でレオ＝レオニびっくり箱を置き、レオ＝レオニの本を紹介して読んでもらう。（読んだよカードに記入してもらう。）

## 6. 本時の学習指導

### (1) 本時のねらい

お気に入りの一文の選び方を知り、自分のおすすめの作品で、お気に入りの一文を書き抜く。

### (2) 本時の展開

主な学習活動（・予想される児童の反応）	
1. 『スイミー』を教師が読み聞かせをする。	○自分のお気に入りの文をイメージしながら聞かせる。 はこのふたのおもてを書こう。
2. 『スイミー』のお気に入りの一文とその理由について発表し合う。	○お気に入りの一文を選ぶ理由にはいろいろなものがあることに気づかせる。
3. <u>自分のお気に入りの作品の中から好きな文をいくつか選び、その中でお気に入りの一文を選ぶ。</u>	○目的をもって、本文を読ませ、お気に入りの文を見つけさせる。 ○文章が正しいかどうか、グループで確認させる。 ※お気に入りの一文を書きぬいている。(ワークシート)
4. 学習感想を書く。	